厚生科学審議会 疾病対策部会 臓器移植委員会(第84回)	資料6
令和8(2026)年11月25日	

広島県における
移植医療普及啓発の取組について

広島県の地域特性を活かした普及啓発と県民主体の取組

広島県　健康福祉局医療政策課

広島県の普及啓発活動の全体像

さまざまな場面・媒体を通じて、県民が移植医療について知る機会を創出

スポーツとの連携

カープ公式戦での啓発ブース
試合中のアナウンス・映像放映



参加型の啓発

グリーンリボン
ブックカバーデザイン公募



地域イベント

フェス・パレード・ライトアップ等
地域と連携した啓発



学校・若年層への啓発

出前講座・学生の発表
演劇や研究発表



身近な場所での啓発

図書館での展示、タクシーへのステッカー
貼付等日常生活の中で触れる機会



報道機関との連携

新聞・テレビ・ウェブ等
幅広い層への情報発信



単発のイベントにとどまらず、年間を通じて多様な接点をつくる

事例①-1　カープとの連携

県民に親しまれているスポーツを通じ、普段関心のない層にも情報を届ける



球場内での啓発

毎年カープの試合日に啓発ブースを設置。
啓発資材約5,000枚を配布。

試合中の情報発信

場内アナウンスや大型スクリーンで映像を放映し、
観客に移植医療について知る機会を提供。



**レシピエント・医療関係者・ボランティア・行政職員が、
グリーンのベストを着用して一体となって活動**

事例①-2　カープとの連携

県民に親しまれているスポーツを通じ、普段関心のない層にも情報を届ける

球団HPでの情報発信

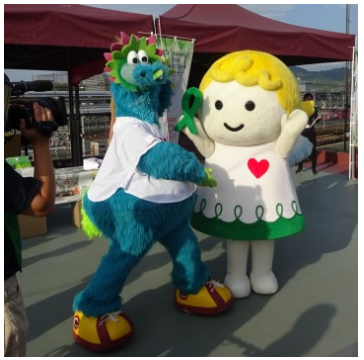




グリーンリボンは、世界的な移植医療のシンボルです。「臓器を提供しても良いという人」と「移植を受けたい人」が結ばれることで、つながる「いのち」があります。
より多くのご関心をよろしくお願いいたします。

コラボレーションによる認知拡大





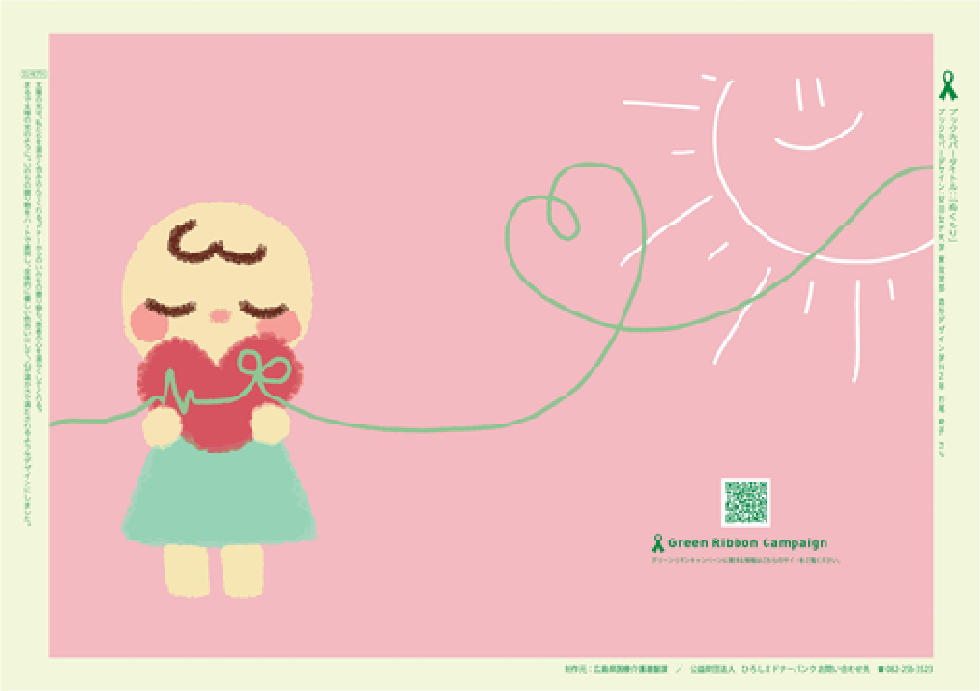
スライリー
×
ハーティ
ツーショットも！



多くの方が移植医療を知るきっかけにつなげる

事例②-1　グリーンリボンブックカバーデザイン公募

デザインを考えることを通じて、若い世代にも移植医療を考えるきっかけを提供



2025年優秀作品「ぬくもり」
（安田女子大学家政学部造形デザイン学科２年　杤尾愛子様）

県民からデザインを募集

グリーンリボンをテーマにした作品を公募。
毎年70件前後の応募があり、9割以上が学生。

優秀作品を実際に活用

協力書店で文庫本購入時に使用。
デジタルブックカバーとしてデータを広島県HPに掲載。

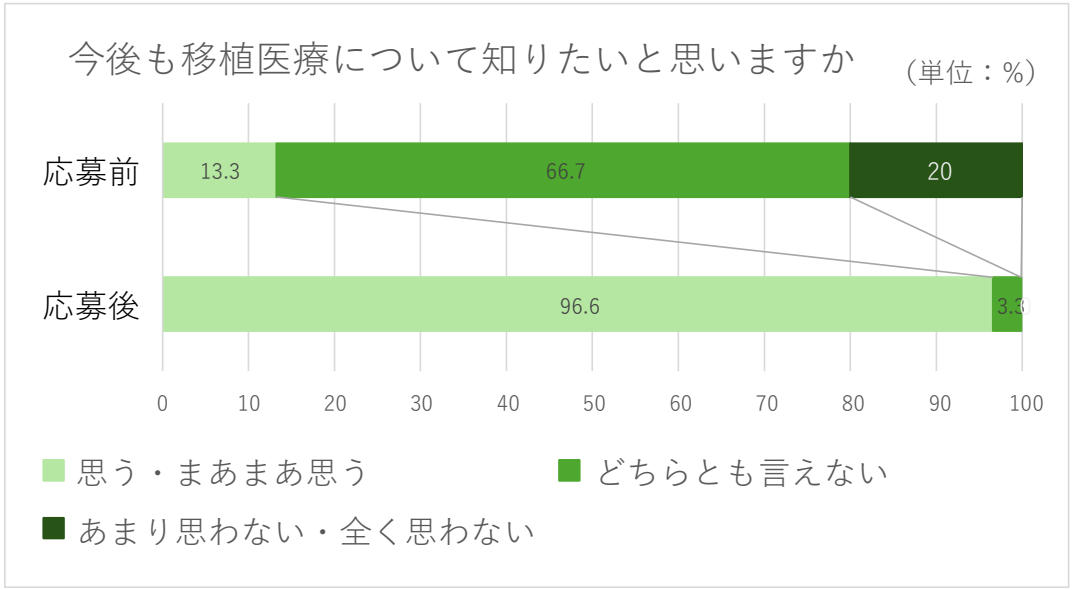


文庫本のブックカバーに

2023年優秀作品「いのちの贈り物」
（安田女子大学
家政学部造形デザイン学科１年
細美実里様）

事例②-2　グリーンリボンブックカバーデザイン公募

令和７年度アンケート結果（対象者：応募者61名）



「今後も移植医療について知りたいと思う」と回答した割合

応募前　13.3%　　応募後　96.6%



2022年優秀作品「光のほうへ」
（安田女子大学家政学部造形デザイン学科１年
茶之原侑以様）

情報を届けるだけでなく、考えるきっかけをつくる。

事例③-1　報道機関との連携

イベントでの発信をきっかけに、報道機関による継続的な情報発信へ

① 取材の働きかけ

県コーディネーターを通じて、報道機関へイベントや取組の取材を依頼。

② 報道による発信

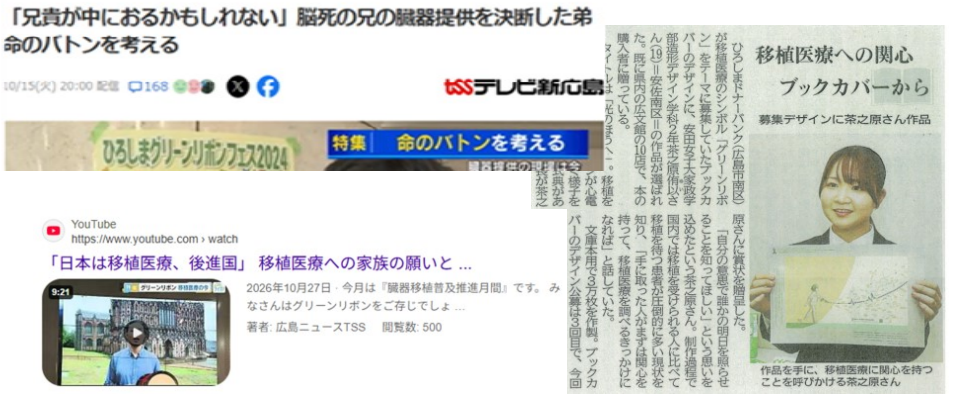
イベントや移植医療の現状が、新聞・テレビ・ウェブ等を通じて広く発信。

③ さらなる広がり

取材した報道機関の担当者が、移植医療を伝える番組や記事を制作。







事例③-2　報道機関との連携

若い世代にも届けたいという思いから、ドキュメンタリー番組と連動したLINE NEWS記事を制作





400万本を超える記事の中から
「LINE NEWS AWARDS 2022」LINEジャーナリズム大賞を受賞



報道機関の関心につながり、更なる情報発信へ。

県民自身が、発信する側へ

普及啓発に参加した人が、自分にできる方法で次の発信者となった事例

学生による演劇

出前講座に参加した学生が、
臓器移植をテーマにした演劇を企画。



学生による出前講座等の企画

スピーチコンテストに参加した学生が、
出前講座や研究発表など、
普及啓発に取り組む。



料理教室での発信

イベント参加者が、自身の料理教室で
移植医療について伝えたいと
出前講座の企画を申し出。



「知る人」から「伝える人」へ。県民の主体的な行動が生まれている。

県民主体の活動が、地域社会へ広がる

一方向の情報発信にとどまらず、人から人へと伝わる流れが生まれる

知る

イベント・講座・報道などを通じて、移植医療に触れる

考える

「自分ごと」として、移植医療を考える

伝える

身近な人や所属するコミュニティで発信する

広がる

新たな人が知る機会につながる







県民一人ひとりが「自分ごと」として考え、伝えることで、
移植医療への理解が広がっていく。

多様な主体の取組を支える広島県の役割①

企画・運営への支援

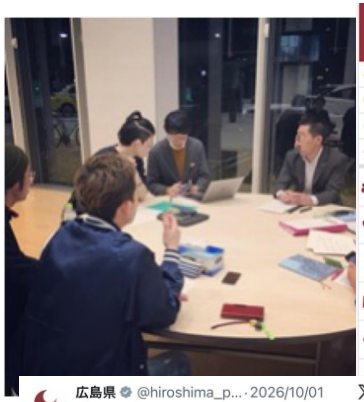
関係団体の取組に対し、共催・後援。
県コーディネーターが中心となり、サポートを行い、実施につなげる。

広報・情報発信

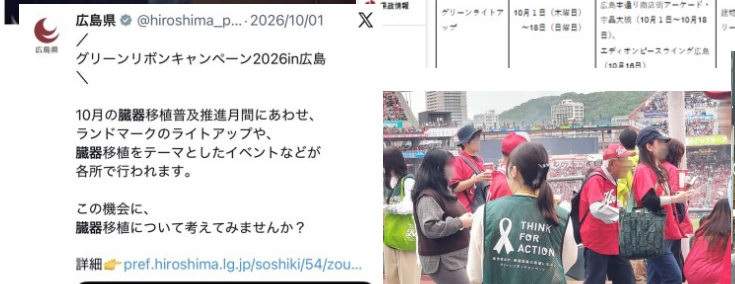
チラシ配布、県ホームページやSNSでの発信など、活動を広く周知する。

現場での協力

イベント等において、関係者とともに実際の普及啓発活動に取り組む。











多様な主体の取組を支える広島県の役割②

臓器移植等推進功労者に対する知事感謝状の贈呈

【要旨】
臓器移植及び造血幹細胞移植の推進や普及啓発についての功績が顕著である者（団体）に対して感謝状を贈呈し、その労苦に報いるとともに、移植医療関係者の士気の高揚を図ることにより、移植医療のより一層の推進を図る。

【贈呈基準】

区　分	内　容
臓器提供協力	救命救急センター及び脳神経外科を併設する医療施設等において、臓器提供可能な者に対し提供の意思確認を行い、移植関係機関への情報提供を継続的に行うなど、移植医療に著しく貢献した場合
造血幹細胞移植推進活動	造血幹細胞移植手術の実施などの移植医療に著しく貢献した場合
普及啓発活動	臓器移植及び造血幹細胞移植に関して広く普及啓発活動を行い、県民意識の向上に顕著な功績があった場合
移植希望者のケア	臓器移植及び造血幹細胞移植希望者に対する治療を始めとした移植待機患者へのケアに尽力した場合
調査及び研究	臓器移植及び造血幹細胞移植に関して調査・研究を行い、以後の移植医療に貢献した場合

関係者の意欲向上
取組に対する社会的認知につなげる

令和８年度贈呈式の様子







贈呈式の内容や受贈者の功績は県HPに掲載

医療関係者、グリーンリボン推進協会、マスコミ、ひろしまドナーバンク、関係者の主体的な活動を、県が支える。

広島県の取組の特徴

多様な接点と参加の機会を通じて、県民の意識と行動につなげる

身近な接点

スポーツ、イベント、学校、報道など、日常の中で移植医療に触れる機会をつくる。

参加する機会

デザイン公募や講座、イベントなど、県民が受け手にとどまらず参加できる場をつくる。

主体的な広がり

参加した人が自ら発信する側となり、地域や身近な人へと普及啓発が広がる。



パレード出発前に県庁に集合し記念撮影

「知る」機会をつくり、「考える」きっかけを生み、
「伝える」行動へとつなげていくことが、広島県の取組の特徴。

まとめ・今後の方向性

移植医療について知り、考え、伝える。
その積み重ねが、地域社会に理解の輪を広げていく。

【今後の課題】
一過性のものにせず継続していくこと、
新たな担い手が普及啓発に参加できる機会をつくること、
関係団体と連携しながら、県民の自発的な活動を継続的に支えていくこと。

県民一人ひとりが移植医療について知り、
自分ごととして考え、周囲に伝えていく。
そのような機会を今後も広げていく。

ご清聴ありがとうございました

